

第66回北海道社会人バドミントン選手権大会

第15回北海道シニアバドミントン選手権大会

新型コロナウイルス感染症対策「競技・運営上の注意」

北海道実業団バドミントン連盟

1. 基本的な考え方

公益財団法人日本バドミントン協会が作成した新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに準じて、北海道実業団バドミントン連盟が作成した新型コロナウイルス感染症対策「競技・運営上の注意」に基づき、参加者および関係者の健康と安全の確保を最優先して実施する。

2. 会場への入場制限および無観客試合の実施について

- ①本大会は、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から入場者の制限をするとともに、無観客試合での大会実施とする。会場内への出入りについては、原則当日試合に出場する選手、部長・監督・コーチ・マネージャー等のチーム役員、大会役員のみとする。(以下、大会関係者とする)
- ②新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、大会関係者は次の書類を必ず提出すること。
【大会参加者用】
●「新型コロナウイルス感染症対策確認書」(大会参加者用) (大会両日の受付時)
【大会役員用】
●「新型コロナウイルス感染症対策確認書」(役員・報道関係用) (大会両日)
※体調がよくない(発熱・咳・倦怠感などの症状がある)場合は、自主的に参加を見合わせる事。
③発熱者(37.5度以上)の入場を禁止する。発熱者(37.5度以上)が確認された場合は、棄権とする。
- ④会場内では必ずマスクを着用すること。(試合時・練習時は除く)
- ⑤当日の試合や敗者審判等が全て終了した大会参加者は、速やかに退館すること。
- ⑥「新北海道スタイル」安心宣言を会場内に掲示して啓発を行う。

3. 開場時間・受付について

- ①開場時間は8:30の予定。入館後に1階アリーナ入口前で検温を実施すること。検温後に大会受付で受付を済ませること。

- ②大会初日は、大会受付で「プログラム」、「参加料領収書」、「競技・運営上の注意」、検温済みを
確認する「リストバンド」を配付する。リストバンドは退館するまで、必ず手首につけること。
大会二日目は検温済みを確認する「リストバンド」のみを配付する。

4. 大会会場内に関する確認事項

- ①感染防止対策として、消毒液、非接触型体温計等、必要な用品を準備する。手指消毒液は、出
入口付近、アリーナ内、通路等に適宜配置し、手指消毒を励行する。
②組み合わせやタイムテーブルの掲示はしない。
③外履きは袋に入れて各自で管理し、会場の下駄箱は使用しない。
④更衣室の使用について、シャワーを利用する場合は短時間で済ませること。
⑤食事をとる場合は、観覧席、各階フロアのテーブルで行う。飛沫が発生し感染リスクが高いこと
から、距離をとり密にならないよう徹底する。
⑥観覧席については、席または距離を空けて座り、一定の距離を保つ。
⑦応援は声を出さずに拍手をもって行い、鳴り物等を利用した応援は禁止する。
⑧ゴミは、感染症拡大防止の観点から各自持ち帰り自宅で処分する。

5. 大会本部

- ①大会本部の設置は、密を避けるように配置し、適切な運営スペースを確保する。
②大会運営に係る物品等については、定期的に消毒を行う。
③審判用具(筆記用具・バインダー・ストップウォッチ・カゴ等)は対戦終了ごとに消毒する。

6. 競技会場及び競技関係用具類について

- ①コートサイドへはカゴの設置はせず、各自タオル・飲み物・ラケットを入れたバッグを持参する。
②インターバルの時間は設定するが、ボードは使用しない。
③審判を交代する場合は、使用していた審判台・線審席・得点板を消毒してから交代する。
④対戦終了後、参加選手でコートのもップ掛けを行う。

7. 競技関係者及び競技の確認事項、開閉会式について

- ①選手同士や審判員との握手は行わない。また、選手同士や監督・コーチ等とのハイタッチなど
の接触を行わない。トスは、フィジカルディスタンスを確保して行う。
②主審のコールは、必要最小限とする。線審は、指定の合図を行い、コールをしない。
③シャトルの交換は、主審に確認の上、選手がシャトルを取り出し、使用済みシャトルは選手が回
収カゴに入れる。
④ベンチは設置しない。
⑤朝の練習はアリーナ内が密になりやすいことから、時間及びコートを制限をして行う。
⑥試合開始前の練習は、主審の指示で各マッチ(試合)開始前の2分間とする。
⑦開会式・閉会式は行わない。競技開始前の注意事項等の説明および表彰(種目別に随時)の
み行う。